

平成 29 年度「みんなの幸せづくりをすすめる研究会」第 3 回オープンミーティング 報告書

実施日時	平成 29 年 11 月 13 日 10:30~12:30	場所	茨城県総合福祉会館 4 階 大研修室	体験内容	<p>指導者 1 名が全体説明者としてすぐろくの進め方を説明します。 ボランティア・市民活動フェスティバル 2017 では、4 人で 1 つのグループとなり、水戸市の「すぐろく隊員」1 名が各グループの説明員としてサポートします。 各自がすぐろくの駒を選んで順番を決め、サイコロを振り、数字の分だけ駒を進めます。しかし、早く進むのは認知症が進行することを意味します。 途中、止まったマスにより、1 回休みや数コマ戻るの指示や、体操や脳トレの指示もあり単純には進みません。サービスや利用方法などの説明があって、認知症やサービスを理解できます。 今回は、サポート役のすぐろく隊員が、途中で休憩をいれたり、止まったマスの内容を説明したり、ゆったりとした気持ちで理解を深めます。最初の 1 名が上がったらそのグループは終了です。 その後、すぐろくの裏面に記載された認知症対応を全体指導者が説明し、約 1 時間半で体験が終了しました。体験者アンケートでは、内容等を理解できない人はいませんでした。 ※水戸市東部高齢者支援センターでは、毎月第 3 日曜日の 10~12 時にすぐろく実践会を開催しており、修了者には「すぐろくマスター」バッジを授与し、認知症すぐろく隊として、地域ですぐろくを実施する際の司会進行役等ファシリテーターとして活動します。</p>	
参加人数	53 名	参加社協	常総市・笠間市・取手市・常陸大宮市・小美玉市		<p>体験者アンケート結果</p> <p>参加者 53 名のうち、34 名の方からアンケート回答がありました。 良く理解出来た…71%、地域で使いたい（指導者がいれば良い）…82%、改良版にしたい…15 名、そのまま使う…9 名、改良版があれば改良版を使う…3 名</p> <p>参加者のコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 途中で体操をするマスがあり、盛り上がった。ゲーム中に身体を動かすことは良い。 認知症 456 を真ん中にして、4 人が 2 名ずつ向かい合って座ると、456 の絵を逆の側から見る人はマスの進行方向が分かりにくいという意見が複数あった <p>「サロンで使いたい」など地域のみinnで使うことに前向きな意見が多数ありました。</p>	
役割	<p>発表者（水戸市東部高齢者支援センター）（塙のぞみ）氏 他センター職員 5 名、すぐろく隊員（センターが養成したすぐろくマスター）7 名 記録者（高見：県社協）</p>			アドバイザーからのコメント	<p>茨城県 44 市町村で簡単に使えるツールである。社会資源が掲載されている裏面については、地域包括支援センターや認知症サポーターなど、456 で強調したい点の分かりやすくなっていると良い。各市町村の認知症ケアパスの内容を確認しておく必要がある。456 の進行役である指導者が鍵である。 《長谷川アドバイザー》1 グループ 4 人で 456 を行う際、反対側からも見やすいつくりにするのと、裏面の社会資源一覧をカードにするとより使いやすいのではないかと。町内会や支部（地区）社協では活用機会が多くありそう。各市町村の認知症ケアパスの内容を確認しておく必要がある。 《外岡アドバイザー》高齢者対象の集まりでは、認知症そのものがあまりにも現実的で怒り出す人がいるので、支援者向けとする内容の方が良い。 老人会など一般の高齢者に対しては、会話が盛り上がるマスを設けた方がとりかかりやすい。 参考：水戸市の要綱（変更して使用する際にはサンプルの提出。有償にしない等のルールあり。）</p>	
研究課題・テーマ	<p>（選択理由） 水戸市は、高齢化が進展する中でも認知症の方が尊重され、出来る限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現をめざし、市民が認知症への理解を深めるための「認知症 123（いち・に・さん）」を平成 28 年 10 月に作成しました。 そして、水戸東部高齢者支援センターでは、認知症 123 と併用しながら楽しく学べる教材として「認知症 456（すぐろく）」を平成 29 年 2 月に作成しました。 水戸市全域で行われるサービスを紹介する内容ではありますが、他の地域においても活用可能であることから、ボランティア・市民活動フェスティバル 2017 のプログラムとして開催した認知症 456 を体験しました。</p>				参加した課題検討会議メンバーからのコメント	<p>《笠間市 片岡氏》年齢に関係なく、認知症についての理解を深められるツールであると感じた。地域支援の（地域で認知症を考えるきっかけとできる）ツールとして利用したい。正直、思ったよりも楽しめ、盛り上がる事ができた。 《常陸大宮市 大久保氏》シンプルで楽しく参加者の認知症予防にも効果があると思われる。生活支援体制整備事業等での居場所で活用出来る。</p>
実施内容	<p>1 講義：認知症を知るためのはじめの一步「認知症 123（いち・に・さん）」を説明 認知症を「1 知って 2 予防して 3 みんなで支える」ためのテキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症を正しく理解する ・自分でできる認知症気づきチェックリストを掲載 ・地域のみinnで認知症の人をみinnで支える ・認知症の状態に応じた支援やサービスを理解する <p>2 体験：「認知症 456（すぐろく）」 すぐろくの進み方で、水戸認太郎じいさんの認知症の症状変化を理解し、その支援の注意点や対応サービスを理解していきます。 すぐろくのマスに従って、体操や脳トレなどのプログラムを体験し、参加者みinnで楽しく認知症理解を深めていきます。</p>					
すぐろくの目的・進め方	<p>目的：すぐろくを皆で楽しみながら、認知症を正しく理解し、必要な支援を学ぶ。 進め方：認知症を知るためのはじめの一步「認知症 123（いち・に・さん）」を説明する。 ：「認知症 456（すぐろく）」を体験する。 ステップ 1：認知症を理解し、認知症の人の気持ちを学ぶ。 ステップ 2：チェックリストで自分の状態を早く理解し、予防方法を学ぶ。 ステップ 3：認知症の人への接し方や状態に応じた支援やサービスを理解する。 ステップ 4：4 名 1 チームとなって、自己紹介・アイスブレイクから開始。 ステップ 5：すぐろくを通して、認知症や支援サービスを学ぶ。 ステップ 6：終了後、裏面記載の認知症支援サービス等を全員で確認し、我が事意識を高め、みinnで支えあう地域の必要性を確認する。</p>					